

2023年度 第2回 亀田医療技術専門学校 教育課程編成委員会議事録

日時：令和5年11月13日（月） 15：00～16：30

場所：亀田医療技術専門学校 2号館3階 301教室

出席者

教育課程編成委員

- ・ 鴨川市市民福祉部長 鈴木 克己
- ・ 亀田総合病院看護管理部副部長 安田 友恵
- ・ 千葉県看護協会安房地区部会役員 栗田 みよ子

専門学校教職員

- ・ 学校長 大塚 伊佐夫
- ・ 副学校長 鴫田 猛
- ・ 統括教育主任 吉田 広美
- ・ 看護学科教育主任 関根 恵子
- ・ 看護学科教育副主任 新井 淳子
- ・ 事務長 松下 泰久

敬称略

司会：鴫田副学校長 書記：片桐

委員会次第

1. 開会、資料確認

鴫田副学校長が司会を務め、資料1～3の有無を確認。

2. 出席者の確認（資料1）

一覧をもとに出席者の確認を行った。

3. 大塚学校長挨拶

「来年度の学生募集に苦勞しております。巻き返しを図りたいと思いますが難しいのが現状です。ただ在校生にはできるだけ良い教育をしていきたいと考えていますので、ご意見をよろしく願いいたします」と挨拶した。

4. 新カリキュラムにおける主な新科目に関する教授状況について（資料2）

①環境学、宗教学の学びについて

▼環境学（1年次5月履修 15時間）

第1回目の会議時点で講義を終了していたため、授業内容・評価については資料を参照。次年度に向けた課題、繋げ教育について説明。

令和6年度 他の教科科目への繋げ教育

- ・看護の概念枠組み（人間・環境・健康・看護）とその関係性が理解できるように教授していく。
- ・「基礎看護学Ⅰ（看護学概論）」の教授内容に、人間の暮らしにおける環境が自然環境にどのような影響を及ぼしやすいのか、考える機会をもち、意識づけさせていく。
- ・「環境学」シラバスの授業内容を加筆する。
- ・集中講義が予測されるが、「地域・在宅看護論Ⅰ」や「基礎看護学Ⅰ」などの関連科目の履修進度と照らし合わせながら授業依頼をしていく。
- ・入学ガイダンスの教育課程編成・実施の方針の説明の際、分野別の履修概要と体制、各分野の関係性の説明を丁寧に分かりやすく強化していく。

#### ▼「宗教学」（1年次9～10月履修 15時間）

昨年度と履修内容を変更した。第6回に「死生観について考える」との内容で授業を実施。疑似臨死体験として、大切な人、大切なもの、大切なこと、大切な思い・価値・信条などそれぞれ5つあげ、1つずつ消していくことを、ディスカッションをしながら行った。

昨年度は授業後のアンケートで「看護の仕事で重要である」という問いに「当てはまる」と答えたのが約77%であったが、今回は83.7%にあがった。また「考えさせられる問題提起」の問いには89.1%が「当てはまる」と答えている。

記述式のアンケートでは学生が「死生観」に向き合った際、心を揺れ動かしながら考えていたことがわかる。また「人の生活には宗教が必要」「人間の尊厳と尊重、思いやる心・誠実な心で向き合うことの大切さ」「宗教と無縁だと考えていたが普段の生活の中にある宗教の影響について気づかされた」等の意見が見られた。

#### 宗教学の履修を通して

- ・宗教を「信じる・信じない」に関わらず、宗教はその国の思想・歴史・文化等が相互に影響しあい、倫理観や道徳を形成する上で大事であることを理解した。
  - ・生活の中にある宗教の影響に気づくことができた。様々な宗教に触れ文化や考え方の違いから、自分自身が常識と考えていることが他者とは違うこと、どんな考え方にも正解はないため、自分も相手も尊重することが大事であることに気づけた。
  - ・死生観を学ぶ中で死に対するとらえかたの違い、生と死における宗教の意味や医療に与える影響、人間の尊厳と死について語ることの意味、生にどのように向き合うかまで考えられる学生もいた。
- ➡「宗教学」看護職における人間の尊厳と尊重、倫理観、真心の看護の本質をとらえる学修であることから、科目目標は達成できたと考える。

#### ②地域・在宅看護論の学びについて

##### ▼地域・在宅看護論

学習目的：地域で生活する個人・家族を看護の対象として、生活の基盤である「地域」を理解し、自分の望む健康や暮らしを支援するための基礎的能力を養う。

##### ◆地域・在宅看護論Ⅰ（1年次4～6月履修 15時間）

授業構成：第1～5回は講義およびテーマに沿ったグループワーク／第6回は仮想事例に

沿ったグループワーク／第7回は発表

◆地域・在宅看護論Ⅱ（1年次6～11月履修 15時間）

授業構成：第1～4回は講義／第5回はグループワーク／第6～7回はフィールドワーク  
／第8回はフィールドワークを通じたグループワーク（地域マップの作成）  
／第9回は地域マップを基に各グループの発表

現在、地域・在宅看護論Ⅱの履修途中。11月20日に終講予定。

クラス別で午前2コマを利用しフィールドワークを実施。科目目標2)を基に、フィールド履修目標1)～3)を掲げ見学施設を通して学ぶ。(見学施設：鴨川市役所、郷土資料館、観光協会、社会福祉協議会)

フィールドワークの学び

- ・「社会保障制度」の開講は9月からであり、社会福祉に係わる学修が未充足なためフィールドワークの見学施設との結びつけが十分でなかった。
- ・見学施設からは学生が事前に提示した質問は、ホームページなどに掲載されている内容があると、指摘を受けた。(十分な準備ができていない)
- ・科目目標2の地域で暮す人々との対話やインタビューを通して、地域で暮すための支えていく仕組みや暮らしの理解を深めていくことが望ましいが、見学施設で担当者のからの説明を聴講することに重きがおかれていた。
- ・暮らしを構成(衣食住・人間関係・愛情・感情・夢・希望・価値観・歴史・文化)する視点でのインタビューが十分されていないことから、人々の暮らしの場を探索し現状を知るまでに至っていない。

**課題**・暮らしを知る上での歴史・文化・地形は「地域・在宅看護論Ⅰ」で履修するように再編成する。

- ・フィールドワークで各見学施設担当者に、暮らしの場の理解が深まる質問ができるよう支援していく。
- ・地域で暮す人々と接して、自助・互助・共助・公助の視点で考えられるように授業設計を再編成していく。

5. 電子教科書、タブレット教育の教育効果等について（資料3）

活用状況について

看護学科

▶学生の活用状況

電子教科書

- ・授業中、電子教科書の利用者だけでなく教科書(冊子)を活用する学生も見られる。
- ・電子教科書にマーカーはひくが、書き込みや付箋機能を使いながら学習する学生は少ない。
- ・電子教科書を開き、要点はノート(用紙)にまとめる学生が大半である。

タブレット

- ・タブレットのメモ機能、ノートアプリをダウンロードして使用している。
- ・グループワークを通して作成した発表用資料、ケーススタディ、実習での学びのレポ

ートの提出は一部 Teams を利用している。

- ・レポート課題においては、Word 等の設定ができない学生もいる。

#### **要望**・授業資料の電子化

→資料の紛失が無くなり、持ち運び、検索・確認が簡単になる。

#### ▶教員の活用状況

##### 電子教科書

- ・電子教科書にマーカー、書き込みや付箋機能を使いながら教授する教員は少ない。

##### タブレット教育における教員の活用状況と効果

- ・グループワークを通して作成した発表用資料、ケーススタディ、実習での学びのレポートの添削や指導は Teams を利用している。遠隔時でもリアルタイムに指導ができる。
- ・事前学習については電子化での作成を許可している。
- ・看護技術修得に向けた事前学習として、電子教科書巻末の動画を視聴するように推進している。その結果、授業時間の有効活用ができた。
- ・Forms で作成したミニテストを授業中に実施し、正答率が悪い内容に関してはその場で追加説明を行うことで、すぐに正しい知識を確認することができた。ただし、使用は一部の教員のみ。
- ・臨地実習に赴けない学生に対し、教員とオンライン上で直接対話し実習オリエンテーションを実施。自宅療養終了後の臨地実習に備えて学習環境を調整し、指導を行った。
- ・実習記録の電子化は、個人情報取り扱い、漏洩などを懸念して運用していない。今後段階的な運用を考えている。

#### **課題**・講義資料の電子化に向けての検討を図る。

- ・教員のタブレット機能の活用スキルを上げる。
- ・入学ガイダンスでタブレットの機能と活用法をレクチャーする。
- ・実習記録の電子化に向けて、情報を探索し検討を図る。

#### 助産学科

- ・検索機能が充実していて良い。横断的に検索ができるので、行っている授業以外の分野での検索もでき便利である。(教科書が無くても可能)
- ・記録時間の短縮につながる。
- ・亀田病院以外の実習先にいる学生と遠隔でのやりとりができる。
- ・事前課題として動画の視聴をさせることで、デモンストレーションの時間が短縮できるなど円滑に授業を進められる。

## 6. 討議

### 地域・在宅看護論について

- ・フィールドワークを行った際に学生はどんな質問をしたのか。(安田委員)
- ・資料にあるような質問を行った。しかし、相手からすると知ってから来てほしいという内容が多かった。(関根教育主任)
- ・学生が作成した質問を事前に確認しているのか。(安田委員)
- ・言い訳になってしまうが、授業の前後で担当教員がインフルエンザに罹患してしまい、対

- 面での指導ができず、他の教員もうまくフォローができなかった。 (新井教育副主任)
- ・下調べができていなかったり、調べ方がわからないとなると、せっかくフィールドワークに出たのにもったいない。 (安田委員)
  - ・地域住民との接触はできたのか。 (栗田委員)
  - ・市民の方にはご挨拶から始めたので、交流はできなかった。もしかしたら、見ていないところでの交流があったかもしれない。 (新井教育副主任)
  - ・時間的に施設見学に重きを置いた内容となった。 (関根教育主任)
  - ・移動手段が大変なのではないか。 (栗田委員)
  - ・地域の人々との接触を行動化していきたい。地域・在宅看護論Ⅱの科目目標 2 (地域で暮らす人々と対話を通して、地域で暮らすための支えていく仕組み理解できる) に繋げるためのご助言、ご助力をいただきたい。 (関根教育主任)
  - ・フィールドワークを通して地域の人々と交流がしたい。今回は施設で話を聞くことに重きになってしまった。また事前学習の必要性もあった。今後は今回のような内容を科目目標 1 (暮らしの場に出向き、人の暮らしについて知ることができる) に移行し、科目目標 2 を充実させたい。どうやったら交流の時間を多く持てるかという課題がある。(鵜田副学校長)
  - ・ふれあいセンターの職員は、学生が地域に興味を持ってくれるのならいいと言っていた。ただ、投げかけられた質問が大ざっぱすぎて、何が聞きたいのかよくわからなかった。例えば「予防接種について」という大質問ではなく、予防接種の何について、仕組みなのか制度なのか種類なのかといった詳細な質問をして欲しいとのこと。しかし今後も受け入れられる機会があれば受け入れる。また、文化に触れる、文化財を知ることについては市で計画づくりを現在行っており、保存活用地域計画が策定された際には参考にしてはどうか。 (鈴木委員)
  - ・質問の考え方として、地域の困りごとに対し、どのように市は対応しているのかなど地域で困っていることを考えてみる。例えば車が運転できない人達がどうやって通院しているのか、生活の中でどう困っているのか、市はどう関わっていくのかなど、その立場に立って考えてみる必要がある。また障害者支援にはどんなこがあって、学校等の受け入れはどうなっているかなど、住んでいる人は何に困っているのか、どう生活すればより良くなるのかを具体的に考え、どう結び付けていけるのかを質問で上げていけると良い。 (安田委員)
  - ・授業では「東条地区在住 40 歳」など事例を挙げて考えさせるようにはした。しかしそれが質問の意図としてきちんと伝わらなかった。事例を伝えたうえで質問ができれば良かった。 (新井教育副主任)
  - ・今後の学習として結び付けられて、成果が出ると良い。 (安田委員)
  - ・鴨川市以外の地域と比べてみるのはどうか。不便なこと、利点などの違いを知らないと質問に繋がらないのではないかと。都会からみたら不便なことも、住んでいては気づかないことがたくさんある。 (栗田委員)
  - ・鴨川市以外の地域との比較も大切であるが、まずは市内における地域格差を知る必要がある。しかし交通手段の関係でなかなか現地へ赴くのが難しい。 (鵜田副学校長)
  - ・現実的なところを見る、知ることができると良い。 (栗田委員)
  - ・長狭地区なども行きたいが、交通手段がない。交通手段の確保が必要となる。

(鵜田副学校長)

- ・3～5キロ圏内で、学生の車（乗り合い）や自転車で見学先に出向いた。ただ、次年度も同じように学生が車を出せるかはわからない。(新井教育副主任)

#### 宗教学について

- ・宗教学のグループワークを行ったことで、死について考えることができたのではないかと。(鵜田副学校長)
- ・授業後のアンケートの回答率が70%とあるが、授業に出ているのにこの数字なのか。(栗田委員)
- ・授業アンケートはいつ取っているのか。(安田委員)
- ・授業後、学生のメールにフォームのアンケートを送り実施している。授業内ではない。(鵜田副学校長)
- ・死生観を教えている講師は病院のチャプレンの方か。(安田委員)
- ・宗教学の授業は7回すべてをチャプレンに依頼している。(関根教育主任)
- ・「講義の要点は分かり易かった 87.3%」に対し「講義の内容は難しかった 63.7%」とアンケート結果が矛盾している。(大塚学校長)
- ・自分たちは無宗教だと思っているので、入口として抵抗感があったりするのではないかと。(鵜田副学校長)

#### 電子教科書等について

- ・看護学科は実習記録等まだ電子化を実施していないと言っていたが、助産学科はどうなのか。(安田委員)
- ・助産学科に関しては、記録を打ち込んでいる人もいる。やりたい人はどうぞ、というスタンスである。しかし、分娩経過については手書きで行うなど、電子化にしにくいものもあるので全てを電子化にするのは難しい。(吉田統括教育主任)
- ・入力タブレットで行っても、記録の提出は紙なのか。(栗田委員)
- ・紙での提出をさせているが、実習施設が遠方の者にはデータで提出させている。(吉田統括教育主任)
- ・現在すべての高校で電子教科書が導入されているのか。(大塚学校長)
- ・昨年度から高校での電子教科書が導入され、2025年度入学生に関しては高校1年次からタブレットを活用していることになる。(鵜田副学校長)
- ・高校では冊子の教科書も購入しているが、課題の提出等やり取りは電子が多い。(関根教育主任)
- ・電子教科書などは卒業しても自分の財産として残るのか。(栗田委員)
- ・電子教科書については卒業後も使用できるのが、卒業後何年までという区切りがある。また紙の方が覚えやすいという世代もいるので、今は両方使用している。(鵜田副学校長)
- ・発表などにタブレットを活用しているのか。(大塚学校長)
- ・授業課題やグループワークの内容をタブレット上でデータを作成し発表する学生もいる。(鵜田副学校長)
- ・Wordの機能設定（文字数、行数など）ができない学生も多くいる。(新井教育副主任)
- ・教員が配布する資料はデータなのか。(大塚学校長)

- ・今はまだ紙である。将来的にはデータ配布できるといい。 (鵜田副学校長)
- ・社会人経験者の中には IT 関係出身の学生もいる。資料のデータ配布や PDF の加工ソフトを希望している。 (新井教育副主任)
- ・病院において如何に効率的に働くか、少ない人数で患者さまに対応できるのかと考えていかなければいけない。人員確保ができないなら、見守りカメラや、ロボットなどが必要になるかもしれない。その際に IT に明るい人がいると良い。 (安田委員)
- ・公欠などの場合、体調に問題がなければ遠隔授業を行っている。 (関根教育主任)
- ・コロナ禍の影響で、学校で ZOOM の活用ができるようになり、自宅学習ができるようになった。 (鵜田副学校長)
- ・病院では入院オリエンテーション指導の際にタブレット等を活用しているのを見かけるが、他の使用例はあるのか。 (新井教育副主任)
- ・各部署で作業効率化を目的に QR コードなどを作成し、オリエンテーション指導などを行っているところもある。しかし部署ごとで行い、統一されているわけではないので、今後整備していく必要がある。 (安田委員)
- ・現在、学生は実習先で患者さまへ紙で指導等をしているが、今後タブレットを活用していくことになるのか。 (新井教育副主任)
- ・診療科によって活用の仕方が異なっているので、今後ガイドラインを作成していく予定である。 (安田委員)
- ・QR コードなどは、そこから YouTube などに飛んで動画を見せるのか。 (大塚学校長)
- ・何かあった時に対応の仕方などの動画を作成し見ってもらうようにしている。 (安田委員)
- ・看護部や感染管理などの研修会も動画視聴が多くなってきている。 (栗田委員)
- ・コロナ禍以降、対面が減ってきている。 (安田委員)
- ・教員の活用スキルをあげるために何かしているのか。 (栗田委員)
- ・教員のスキルアップが学生以上の課題である。 (鵜田副学校長)
- ・学生の中に ChatGPT を活用している学生はいるのか。 (安田委員)
- ・活用していてもわからないかもしれない。 (鵜田副学校長)
- ・ChatGPT は最新のことは分からなくても、現状についてはきちんと答えることができる。 (大塚学校長)
- ・ChatGPT を使い文書を作成し、手直しして課題提出をしている人もいるのではないか。 (安田委員)
- ・電子化が進んでいるが、やはり紙での提出も大切だと考える。丁寧に書く、紙を汚さないなどの基本を学ぶことができる。しかしそれも時代遅れなのかと考えてしまう。 (新井教育副主任)
- ・学生からは撮影した動画で指導をしてもいいか？との問い合わせもある。現在は実施していない。紙のパンフレットの指導の場合、病院指導者のチェックが入っているが動画の時にはどうなるのか。 (吉田統括教育主任)
- ・患者さまが見やすい方法で指導をするのが良いと思うが、動画にした場合の管理する場所(アップ先)などが問題である。 (安田委員)
- ・学生は SNS や AirDrop (Apple) などで直接動画を渡すのはどうかと話していた。

(吉田統括教育主任)

・動画の活用には利点もあるが、どこに動画があって、誰が見ることができるのか、どのように管理するのかなど課題が多い。(安田委員)

・便利とリスクを天秤にかけている状態である。(鵜田副学校長)

・最近テレビを見ないで SNS で情報を得ることが多い。(安田委員)

・病院で防災訓練を実施する際、YouTube で勉強してきましたという人がいて驚いた。

(栗田委員)

・老人、若い人、またスマホ等の操作が容易にできる人、できない人がいるので、対象に合わせて紙、デジタル等の対応をしていく必要がある。(大塚学校長)

#### まとめ

・宗教学については学ぶことに抵抗があったかもしれないが、いざ学習してみると気づかされるが多くあったのではないかと考える。また地域・在宅看護論については地域の方との交流や、困りごとに対して市がどのように取り組んでいるかなど深めていけるといい。事前学習の内容も検討する必要がある。電子教科書については 2025 年の入学生に向けて備えていくためには、教員の格差が課題で研修等に参加しスキルを身につけなければいけない。また実習先でのタブレット使用について意見交換を行っていく必要がある。

(鵜田副学校長)

・電子化等により、慣れるまで教員の負担が重いこともある。しかしより良い教育を行うためなので大変だが努力して欲しい。今回いただいた意見をもとに看護師教育を良いものにしていきたい。(大塚学校長)

#### 7. 今後の予定

次回の会議は次年度で開催日は未定。改めて連絡する。